



▲ 天安門広場からみた故宮

自然とふ

もう一度



悠久の歴史に感動

力強さ・あたたかさを感じた中国

青少年のみなさんに、国際感覚を身につけていただく光町青少年海外視察研修が、7月26日から30日までの5日間9名の若者が参加して、世界が注目している中国を訪れました。万里の長城、故宮、天安門広場などを見学し、上海市の少年宮で地元小中学生との交流を行い貴重な体験をしてきました。

富下 日色敬行

僕と同じくらいの年齢になつてくると、必ず誰もが「自分の行ってみたい国」というものがあると思います。

僕の場合のそれはいくつあるのですが、中でも中国は僕が最も行ってみたい国でした。しかし、自分は学生なので「外国に行く」ということは実現までにまだ時間のかかる一種の夢のようなものと考えていました。そんな時に、光町では毎年青少年に対して海外研修をを行っていることを教えてもらい、この海外研修に参加しました。

まず最初にすばらしいと感じたのは、広大であり、華やかでもある、中国の歴史の古さを感じさせるたくさんの建造物でした。今回の研修では、文化や伝統、歴史などを学んでくるのも一つの課題であつたので、建造物だけでもこれほどの文化や伝統の違いがはつき

りと見てとれたことは、大きな収穫だつたと思います。

次に印象に残つたことは「中国に住む人たち」についてのことです。

大勢の自転車に乗っている人たち、道端で果物やジュースを売っている人たち、家の外にテーブルを出してお茶を飲んでいる家族など、中国では当たり前風景が、僕にとってはすべて新鮮でした。そんな人たちを見て僕が感じたことは、中国に住む人たちの「力強さ」や「あたたかさ」でした。

しかし、そんな中国で、今家庭で子供を一人しか産んではいけないということが法で定められているというところを聞き、僕は何とも複雑な気持ちになりました。兄弟がいらないというのはどの国の人でも寂しいことだと思ふし、また、僕があたたかさを感じた家族の団らんも、子供が多ければ多いほど楽しいものになると思つたからです。しかし、その

反面、一人しかない子供を、今の中国の親たちは、非常に大切にしていることを「少年宮」へ行って知り

ました。そこは日本という塾が集まつた場所であり、そこにはとても幼い子供たちが、一生懸命に習い事をしている姿がありました。

何かを身につけておけば大人になつたときに役に立つし、しかも子供のときにこういう習い事をするのは頭に良いということから、親がたつた一人の子供を立派に育てようということがわかりました。僕も幼い子には、学習塾ではなくこういった、手を使った習い事の方が、無理にやらせているような感じがせずいいのではないかと思ふます。

今回の研修では、他にもいろいろな事を観察してきました。そして僕は、研修以前よりもつと中国が好きになりました。また行きたいと思つています。一つ悔いが残っていることは、

事前に中国について学習することができなかったことです。そうしていればもっと大きなものを得られたのではないかと思ふます。

最後に、僕のような学生に「海外研修」という、まだ経験したことのない勉強の機会を与えてくださった方々に、感謝したいと思ふます。



川野直美さん(芝罘)



鈴木和香子さん(台)



日色敬行さん(富下)



宇井 孝さん(篠原)



佐久間弘幸さん(尾垂5区)



土屋ゆかりさん(小田部)



川野由紀さん(新井)



佐久間菊乃さん(小田部)



大木善博さん(篠本2区)